

壊れゆく国

なぜ日本は
三流国に堕ちたのか

田原総一郎

猪瀬直樹

財部誠一

花岡信昭

著

編

日経BP社 nikkei BPnet



目次

はじめに

序文 民主党は民主化されたが、前途は多難 田原総一郎

第1章

日本経済の国際的地位と課題 田原総一郎 …… 1

日本企業は世界で「システム」を売れ… 2

第2章

対談「田原VS猪瀬」 日本はどうしたら再生できるか …… 10

原発受注で韓国に敗れた日本とフランスの反応／冷戦終結後、新たな市場の誕生を自覚しな
かった日本／トヨタ問題の本質は日本企業に共通する／なぜ日本は金融市場の中心になれな
かったのか／国際化が進んでいない日本の企業／言語力を高め、論理的な思考をする能力が必
要だ／日本人は人と違うのが怖い／最初から引いてしまっている若者たち／高速道路や水道
技術が官民協力で海外へ出て行く／民主党の「脱官僚依存」は大間違い／世界を指して、
オールジャパンで売り込め

「政治とカネ」「普天間問題」に本音で切り込む

田原総一郎 …… 41

小沢VS検察、そして藤井財務相辞任の真相 …… 43

致命傷になった普天間問題 …… 50

国民は民主党が理解できなくなっている …… 59

「辺野古」移設を決断した日 …… 67

ますます深まる「仙谷VS小沢」の闘い …… 75

理屈など何ともなる政治の世界 …… 83

「小沢切り」のシナリオはできていた …… 89

黙ってはいられない、「高速道路問題」「地方分権」

猪瀬直樹 …… 97

選挙目当ての高速道路整備が復活する …… 99

田中角栄以来の高速道路建設の方程式が復活する …… 108

ウツの上塗りを繰り返し返す国交大臣と副大臣 …… 115

無料化どころか8割の利用者に大幅値上げ …… 120

国が押し付ける「義務付け・枠付け」を見直す …… 127

見直した予算は地方に回してほしい …… 134

赤松大臣、ご理解いただけますか？ …… 142

民主党の地域主権、大臣の発言が軽すぎる …… 149

国際戦略につまづく日本企業を叱咤する

財部誠一

……

157

JALはもう一度、倒産する……159

日本の閉塞感を深めたキリン・サントリーの破談……164

日米の報道姿勢から読み解く「トヨタ問題」……169

危機感のない民主党、東アジア経済圏構想は本気か……175

保守派が喝破する民主連立政権の危うさ

花岡信昭

……

179

なんとも危なっかしい民主連立政権の船出……181

普天間問題を5月に先送りした事情……188

自民の断末魔、「特大敵失」にも打つ手なし……196

満座の中で恥をかかされた鳩山氏……205

はじめに

菅直人首相は政権交代を選択した国民の期待に応えられるだろうか。民主主義国家では本来あり得ないはずなのに、4代にもわたって首相経験者の孫や子が首相の座に就き、その「世襲首相」4人が例外なく1年前後で政権を放り出した。菅氏はサラリーマン家庭に育ち、市民運動を経て政界入りしただけに、一般国民は「今度こそ」と期待を寄せる。

鳩山由紀夫氏は辞任表明した民主党の両院議員総会の演説で「国民の皆さんが聞く耳を持たなくなった」と最後までズレた本音を漏らした。それを聞いた多くの国民はあきれ果て、政治不信をさらに募らせたことと思うが、こうした政治家を選んだのはそもそも国民なのであって、政治の側だけに問題を押しつけてよいものかと思う。

英国のサミュエル・スマイルズ（1812-1904）が著した『西国立志編』（中村敬^{けい}字^う訳、『自助論』として知られる）に「国政は人民の光の返照^{へんしょう}なり」とある。「政治とは、国民の考えや行動の反映にすぎない」という有名な言葉に続き、結局は国民の質がその国の政治の質を決めると書いている。つまり、国民一人ひとりがよく考え、正しく行動しない限り、政治はよくなるならないというのだ。政治は国民の姿を映す鏡なのである。日本の政

治レベルが低いのなら、それは民意が劣っているせいなのかもしれない。

政治という言葉メディアに置き換えてもよい。私たちは自分のレベルに合ったメディアしか持てないということになる。政治、メディア、国民の三者が大きな正三角形を描くような関係にならないければ、よい国のかたちはできあがらないのだ。

日経B P社のサイト「nikkei BPnet」(<http://www.nikkeibp.co.jp/>)では様々な情報をネットで日々配信している。各界の著名人が執筆する「時評コラム」は特に人気のあるコーナーで、そのうち田原総一郎の政財界「ここだけの話」、猪瀬直樹の「眼からウロコ」、財部誠一の「ビジネス立体思考」、花岡信昭の「我々の国家はどこに向かっているのか」から好評を博した記事を選び、田原、猪瀬両氏の対談を加えて本書を構成した。

四氏にはそれぞれ多くの著作がある。論客4人の文章を一冊にまとめるという異例の構成をとったのは、多様な意見を発信してみたいと考えたからである。

ぜひ一読して、「よく考え、正しく行動する」ためのヒントを探していただければと思います。本書にご協力くださった著者の皆さんに心より感謝いたします。なお本書では原則として肩書は記事公開当時のものとし、文末の日付は記事公開日を表しています。

序文 民主党は民主化されたが、前途は多難 田原総一郎

6月2日午前、鳩山由紀夫首相は民主党の両院議員総会で辞任する意向を表明した。これに先立ち、鳩山さんは小沢一郎幹事長にも辞任を求め、小沢さんも辞任を了承した。

私は、「nikkei BPnet」の連載で政局の節目ごとに民主党が選択しうるシナリオについて述べてきた。鳩山さんと小沢さんが同時に辞任する可能性についても書いた。

だがごく最近まで、二人は辞めずに7月の参院選を戦うだろうと見ていた。二人が辞めても参院選は負ける。仮に鳩山さんが辞め、新しい首相のもとで戦って負けたら、責任論は新首相にも及ぶ。だから、このまま二人で選挙戦に突っ込むのだと思っていた。

鳩山さんは辞任の理由について、米軍普天間基地移設問題と「政治とカネ」の問題を挙げたが、直接のきっかけは今度改選となる参院議員たちの悲痛な叫びだった。内閣支持率が20%を切り、支持率低下に歯止めがかからない。この厳しい現実は、改選組にとって自分たちの切実な問題になってきた。当選か、落選か。落選する可能性が高いのだ。

危機感を抱いた小沢さんは興石こしいしあすま東参院議員会長とともに、鳩山さんとの会談を5月31日と6月1日に行い、首相に辞任を求めた。鳩山さんという人は、首相という地位にあまり執着しない。だから、「私も辞めますが、幹事長も身を引いていただきたい」と切り返し、ダブル辞任となったのである。

参議院で「ねじれ」、衆議院では3分の2確保できず

民主党は4日に両院議員総会を開き、菅直人さんを新しい代表に選んだ。菅さんは官房長官に仙谷せんごくよしと由人さん、難航した末に幹事長に枝野幸男さんを抜てきした。

新人事で大切なことは、鳩山さんも最後に言ったように、「国民に信頼されるクリーンな内閣」をつくることだ。「クリーン」とは、「小沢色がない」と同義である。仙谷さん、枝野さんの起用は「クリーンな内閣」「クリーンな政党」発足への第一歩だった。

その後の党・内閣の人事を見ても、思い切った「脱小沢」が行われ、小沢さんが一手に握っていた「お金」と「情報」を奪い取ったように思える。つまり、民主化された民主党の姿がそこにはある。

では、菅首相になって日本の政治は今後どうなるか。いくつか問題が横たわっている。

社民党が連立離脱をした現在、7月の参院選で民主党が単独過半数を確保するには60議席必要になる。国民新党とあわせてなら57議席。いずれも現状ではきわめて厳しい数字であり、与党の過半数割れで参議院は「ねじれ現象」になる可能性がとても高い。

さらに、民主・国民新の与党では衆議院の3分の2確保がさらに遠ざかる。自民党は公明党と連立することによって3分の2を確保し、法案が参議院で否決されても衆議院に戻して可決した。現状ではそれができない。

その問題を回避するため、民主党は公明党に閣外協力を求めるだろうか。私は、公明党は動かないと見ている。自民政権では自民党につき、民主党政権なったら民主党につくのは許されない。国民はただちに公明党に厳しい批判の目を向けるだろう。公明党の支持母体である創価学会も反対するだろう。

つまり、菅首相のもとで政治の混乱はさらに続くのである。

菅さんは3日の記者会見で小沢さんの処遇について問われた際、「ご本人にとっても、民主党にとっても、日本の政治にとっても、しばらくは静かにしていただいたほうがいい」と語った。幹事長を辞任しフリーの状態にある小沢さんは「一兵卒でがんばる」と一度語っ

ているが、「小沢色」を一掃した内閣の顔ぶれを見て、小沢さんは本当に「一兵卒」のままじつとしていられるだろうか。

「普天間凍結」という最悪の事態

もう一つは普天間問題だ。5月28日に米軍普天間基地移設問題について日米共同声明が出された。声明文には普天間基地を「キャンプ・シュワブ辺野古崎地区及びこれに隣接する水域」に移し、訓練移転については「徳之島の活用が検討される」と明記された。これで米軍基地は辺野古へ移るのかと言えば、そうはならない。

沖縄の人々は「私たちはだまされた。蚊帳の外に追い出され、日米両政府が勝手に決めた」と大反対する。辺野古に移せる可能性はほぼゼロ。その結果は「普天間凍結」だ。この最悪の事態は、菅さんになっても変えることはできないだろう。

こうした難問を抱え、菅内閣が誕生した。民主連立政権の前途は多難である。

2010年6月初め